

藤原宮と水落遺跡の調査

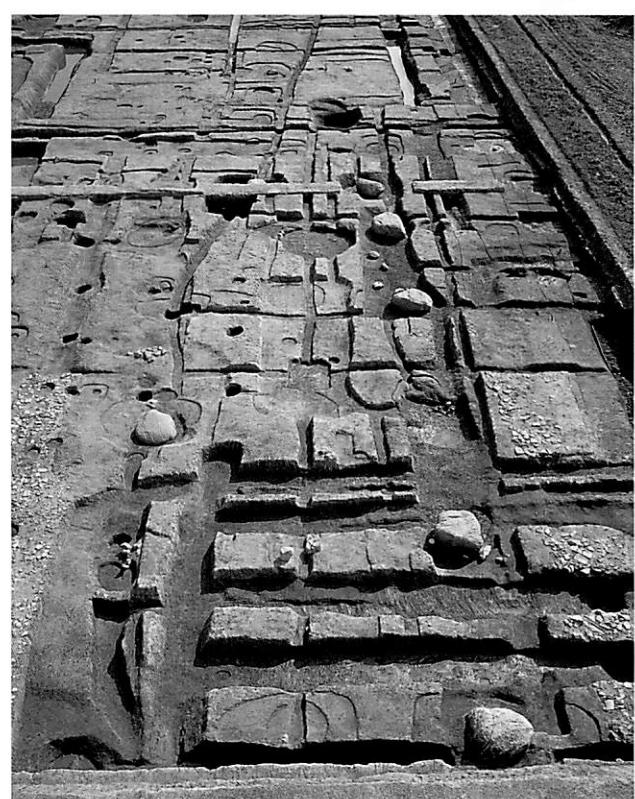


藤原宮内裏地区(大極殿院東方)の調査

日本古文化研究所のトレチが入る朝堂院回廊の東北隅一帯を、60年ぶりに調査した。北面回廊の北側に、巨大な礎石据付掘形をもつ四面廟付建物が存在する。宮内先行条坊の東一坊坊間路と四条大路は、2時期にわたる道路側溝があり、先行条坊の付け替えが行われていることが判明した。北から。本文4頁参照(撮影/井上直夫)

水落遺跡の長廊状建物と石組雨落溝

水落遺跡第9次調査(1996年)で発見した大規模な四面廟付建物の東方で、長廊状建物とその東雨落溝を検出した。その規模や正殿とみられる大型建物との位置関係が、石神遺跡の西区画の遺構配置に類似する。水落遺跡の造営に伴い石神遺跡に移建された前身遺構か。北から。本文46頁参照(撮影/井上直夫)



藤原宮朝堂院回廊

再発掘された北面回廊礎石。中央の柱列の礎石は現存しないが、据付跡から複廊であることを確認。南側柱列の礎石3石が原位置を保つ。西から。本文8頁参照(撮影/井上直夫)

飛鳥池遺跡の調査

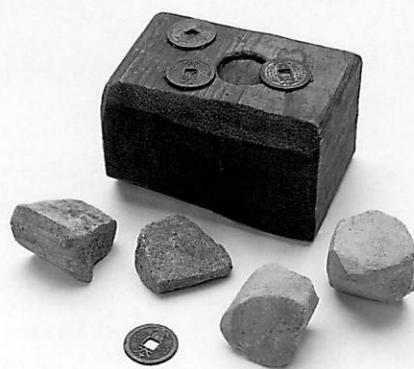


富本錢土坑出土品
陸橋SX214の北端で、一括投棄された富本錢鋳造時の廃棄物ブロックを発見した。富本錢の鋳造技術を解明するための第一級資料である。本文26頁参照
(撮影／井上直夫)

飛鳥池遺跡東南部の調査
第98次調査は飛鳥池工房の東の谷筋にあたり、谷北東岸の工房テラスの南限や遺跡の東を限る堆積などを検出した。谷筋に設けた5条の陸橋間が水溜施設となって汚水処理を行う。北から。本文26頁参照
(撮影／井上直夫)



富本錢の未製品
炭屑の水洗などで次々と発見された富本錢は、現時点で515点にのぼる。
本文38頁参照 (撮影／井上直夫)



富本錢の研磨用具
富本錢の平研ぎ用の作業台とみられる木製品。手前の富本錢は平城京右京八条一坊十四坪出土品。本文35頁参照
(撮影／井上直夫)

富本錢の鋳型
砂質味の強い脆弱な土製鋳型で、細片化が著しい。
本文38頁参照 (撮影／井上直夫)

